国立大学法人
福島大学
Fukushima University

プレス発表資料１

令和６年１０月９日

「福島大学グランドデザイン 2040」を策定

本学は、国立大学としての機能を維持・発展させるために、2020 年に策定した「福島大学ミッション 2030」の見直しを行いました。
急激な社会の変化に直面する中で、10 年後、20 年後の地域の将来像を描き、大学への地域からの期待に応えるため、2040 年までの 16 年間で取り組むべき目標を「福島大学グランドデザイン 2040」として策定し、大学改革の方向性を定めました。

本学では、国立大学法人の第 4 期中期目標期間（令和 4(2022)年度～令和 9(2027)年度)に向け、2030 年までの 10 年間に遂行すべき本学のミッションを、「福島大学ミッション 2030」として令和 2(2020)年に示しました。
しかし、急激な社会の変化、とりわけ 18 歳人口の減少が想像以上に進む中で、国立大学法人としての機能維持が困難な状況が現実味を帯びてきており、本学に求められる機能、本学が果たすべき役割を再度整理する必要があると考えています。
中央教育審議会も、2040 年を見据えた高等教育の在り方について検討を進めている状況を踏まえ、2040 年までの 16 年間で取り組むべき目標を「福島大学グランドデザイン 2040」として策定しました。
URL：https://www.fukushima-u.ac.jp/university/idea/granddesign2040.html

（お問い合わせ先）
福島大学学長室
電　話：024-503-1879
メール：daigakukaikaku@adb.fukushima-u.ac.jp

福島大学4.0

～2040年を見越した機能強化のための再編～

国立大学法人
福島大学
Fukushima University

福島大学グランドデザイン２０４０【概要】

―激変の時代に、柔軟に、かつ強靭に大学づくりをすすめるために―

背景・必要性

◆VUCAと呼ばれる現代社会において、気候変動や大規模災害の頻発、急激な人口減少・少子高齢化、そして昨今の物価高など、多様な問題が生じています。福島大学においては、国立大学法人化および先の全学再編から20年、また東日本大震災・原発事故から13年が経過し、これらから多くの知見を得た一方で、財政問題の深刻化や「2040年充足率8割」などの新たな課題も浮上しており、国立大学法人としての機能維持が困難な状況が現実味を帯びてきています。

◆福島大学は知を結集してこれらの困難に立ち向かい、震災・原発事故からの復興支援を継続し、地域の現代的で複雑な課題を解決するために、不断の改革を進めていきます

◆国立大学法人としての機能強化・発展　◆少子化問題対応　◆財政の健全化　◆社会における諸問題を解決・緩和できる人材育成

ミッション（使命）

●「新しい社会のあり方」を提案できる大学
●個人のWell-being、社会のWell-beingの実現をめざす大学
●激変の時代に「柔軟に、かつ強靭に」取り組む大学

ビジョン（目標）

▸「正解のない問い」にチャレンジできるイノベーション人材の育成
▸地域と世界における現代的で複雑な課題解決のための研究強化

バリュー（行動指針）

教育

●問題解決を基盤とする教育のさらなる推進
●異分野間の融合が可能となるような教育組織の再編
●教育の内部質保証の徹底と、学修者本位のカリキュラムの構築

研究

●既存の研究分野を超えた異分野間の共同研究を推進
●人文社会系研究分野との融合が期待されている理・工・農学系の研究強化
●環境放射能研究所、発酵醸造研究所、水素エネルギー総合研究所等の研究を進化･発展

地域社会との連携

●地方国立大学としてなすべき社会貢献の在り方を再構築、強化
●研究者が問題解決に関与する実践研究として、大学の地域貢献をデザイン
●将来のあるべき地域の姿や課題を明らかにし、そこから逆算した課題を提起

教員養成・附属学校園改革

●震災・原発事故からの復興、少子化時代の学校のあり方を実現する福島の地域課題に根ざした、教員養成福島モデルの構築
●少子化を踏まえ経営方法の変更も視野に入れた、附属学校園の抜本的な改革を実施

グローバル化

●Fukushima Ambassadors Programを発展させ、本学及び地域の課題に即したグローバル化を全学で展開
●留学生数の増加、および語学力の向上、海外インターンシップなどの活性化
●海外との共同研究数の増加

大学改革

◎ミッション、ビジョンを実現するための新たな教育研究組織を構築
●教育と研究を車の両輪として一体的に行うことが可能となる新しい学士・修士課程及び博士課程に改組
●学長のリーダーシップの下、的確かつ効率的に意思決定を行うためのガバナンス体制の点検・整備
●持続可能な大学への転換を目指して財政改革
●組織や研究分野のスリム化を進め、本学の「強み」を先鋭化
●県内外の高等教育機関との連携を強化し、機能の共有･協働体制を実質化

福島大学 4.0

2040年に向けた機能強化再編

☆学群･学類制を学部･学科制へ発展的改編
☆教員養成機能の強化
☆研究力強化及び新しい人材育成スキームの構築

福島大学 1.0 → 国立大学時代、移転統合
福島大学 2.0 → 国立大学法人化、全学再編
福島大学 3.0 → 震災・原発事故以降の取組み

「変化をもたらす力」（新たな価値の創造、責任遂行、摩擦やジレンマへの対応）を身につけ、世界及び地域のVUCAの時代を「柔軟に、かつ強靭に」乗り越えられる大学へ

次ページ以降は現時点での構想であり、実施有無・実施時期・名称・内容等を変更する場合があります。

国立大学法人
福島大学
Fukushima University

構想中

学群・学類再編（令和9年度～）：３学群５学類⇒４学部

R6

人文社会学群

人間発達文化学類（260）
- 教育実践コース
- 心理学・幼児教育コース
- 特別支援・生活科学コース
- 芸術・表現コース
- 人文科学コース
- 数理自然科学コース
- スポーツ健康科学コース

行政政策学類（昼間185、夜間20）
- 地域政策と法コース
- 地域社会と文化コース
- 夜間主（社会人教育）

経済経営学類（220）
- 経済学コース
- 経営学コース

理工学群

共生システム理工学類（160）
- 数理・情報科学コース
- 経営システムコース
- 物理・システム工学コース
- 物質科学コース
- エネルギーコース
- 生物環境コース
- 地球環境コース
- 社会計画コース
- 心理・生理コース

R元 新設

農学群

食農学類（100）
- 食品科学コース
- 農業生産学コース
- 生産環境学コース
- 農業経営学コース

R7

コース再編、高度情報専門人材事業による収容定員増

共生システム理工学類（200）
- 情報理工学コース
- メカトロニクスコース
- 分子デザイン科学コース
- 環境システムコース

R9

教育学部

学校教育教員養成課程

全国的な教員不足に対応するため、教員免許必修とする教育学部に改組。福島県との連携協定にもとづき、福島ならではの教育を実現する「教員養成福島モデル」を確立し、探究的な学びを推進。県立高校の教育コースとも連携し、質の高い教員を福島県に輩出することを目指す

新学部

名称検討中

地方創生、地域社会・経済のサステナビリティを実現するために、経済学・政治学・法学・社会学など人文社会科学を基礎とし、データアナリストの素養を持ち、現代社会の諸課題をEBPMにより発見・分析・解決できる人材を育成

理工学部

理工学科

9コースから4コースへの再編を通じて研究分野を絞り込むとともに、研究分野を強化。特に、高度情報専門人材の育成や、附属水素エネルギー総合研究所を中心としたエネルギー分野の研究を強化

食農学部

食農学科

農場から食卓までのフードチェーンに対応した専門教育と他学部等とも連携した分野横断型教育により、専門性とグローカルな実践性を持ち持続可能な農業・食品関連産業の次世代を牽引する人材を育成

国立大学法人 福島大学 Fukushima University

構想中

再編後の教育の全体像（イメージ）

社会の現実的課題に応じてパッケージ化した
他学部の専門教育科目を修得する
「融合新領域（仮称）」を新設

「融合新領域」を「VUCAに象徴されるような複雑に連鎖する現代社会の課題に対応する学域」と定義する。地球環境と政治・経済・教育、環境と食料と健康と教育、先端科学技術と倫理・社会的受容、芸術・文化と先端科学技術などが想定される。

- ◆ 現代的課題に応じ、学部横断型で設置
- ◆ １パッケージあたり10単位程度で、学生の意見を取り入れながら柔軟に改善できる仕組みとする
- ◆ 各学部の専門科目の卒業必修科目に位置づけ
- ◆ 個々の興味・関心に応じ、複数のパッケージから１以上を履修
- ◆ パッケージ修了者にはオープンバッジを授与

融合新領域によって身につける知識・技能（イメージ）

放射線×学校教員
物理学、生物学や医療などの専門科目を学び
放射線の科学的知識を得た学校教員

気候変動×公務員
気象、海洋物理、陸水学、生態学、植物学などの専門科目を学び気候変動の科学的知識を得た公務員

地方特有課題×技術者
地域福祉学や社会福祉学、過疎化、介護などの地方を取り巻く課題を学んだ
システム技術者

ロボット×農業
AIやロボット工学などの科学的知識を得て、
次世代農業に活用できる農業経営者

福島大学公式マスコットキャラクター「めばえちゃん」

新しい学士課程のイメージ

融合新領域（仮称）＝社会の現実的課題に対応した教育プログラム

学部教育＝確実な専門性の獲得

国立大学法人 福島大学 Fukushima University

構想中

教育学部設置構想

福島大学と福島県教育委員会との連携協力に関する協議会

R5.9協定締結

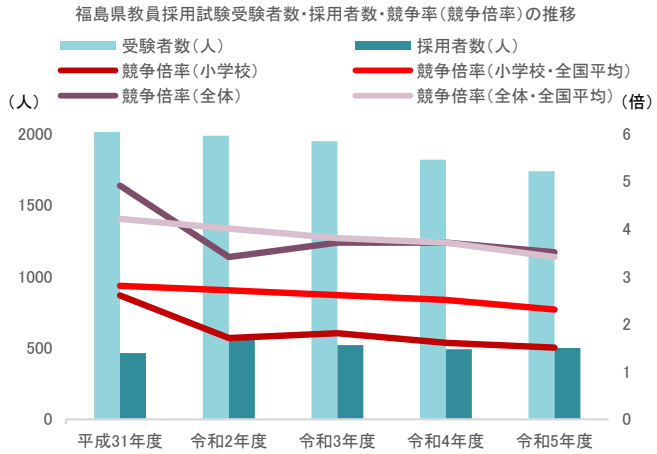
- 高等学校から現職教員入職までのシームレスな学びを実現し、大学と教育委員会が一体となった教師の養成・採用・研修の体制の見直しや構築を実施
- 高等学校、高大接続、大学（新学部設置関係を含む）、教員採用、教員研修に関する部会を設置し、各部会において課題を検討

県立高校教育コース（9校）

- 教育コース生向けプログラム
- 教職の魅力発信と動機づけ
- 大学授業科目の先取り履修

教育コース以外の高校

新設 地域教員希望枠入試



（文部科学省「公立学校教員採用選考試験の実施状況調べ」より作成）

福島県教育委員会

個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していく

「学びの変革」の推進

R9設置予定

教育学部

教育×未来志向×地域　社会・地域に学び未来を創造する人を育てる教員の養成

より高度な教員養成や研修体制を他機関と一体的に構築

福島県の教育課題

奥会津・相双地域をはじめとする人口減少地域の教育維持

東日本大震災からの教育復興

教師不足への対応やICT指導力等

各地の教育委員会・学校との連携

（例）奥会津・相双地域の学校

地域課題探究拠点校

ふたば未来学園

学び舎ゆめの森　など

学校現場

連携

年次 1 2 3 4

教育実習関連科目

参観実習

学習支援

探究活動の支援

等

連携

福島ならではの学び　震災、復興の経験と伝承

- **教職に関する学び**：特別支援教育やICT教育を特に充実
- **教科の専門性を高める学び**：各教科の多様な専門性を育むプログラム
- **学際的な学びと自分に合ったフィールドでの探究プロジェクト**：地域課題、グローバル教育、STEAM教育、インクルーシブ教育、学校臨床、地域学校協働活動などの探究プロジェクト（コース）を複数設定

基盤科目

専門科目

全学生がいずれかのコースに所属

新設

教師不足に対応するリカレント教育

2年間での教員免許取得プログラム（3年次編入）、ペーパーティーチャー向け講座を開設

他大学との連携

宮城教育大学

東北創成国立大学アライアンスへの参加を通じて、中学校実技系教科の教師の養成体制の構築と教員研修について連携・協力

桜の聖母短期大学
福島学院大学

連携協定（予定）を通じ、幼稚園の教師の養成体制の構築と教員研修について連携・協力

新設

高等学校との連携

附属中学校と地元の高等学校との連携プログラム等を設計予定

連携

改革

附属学校園

福島県・福島市の将来構想と連動した附属学校園の改革を実施予定

新設

5年一貫コース

学士段階から教職大学院の科目を先取り履修し1年で大学院を修了する特別コース

教職大学院

教職スタートアップセミナーへの研究発表会の公開

教員採用特別選考

地域枠入学者に対する特別措置（採用試験の一部免除等）

今後は、以下のスケジュールにて公表を予定しております。

（令和6年12月～1月頃）

* 人文社会系新学部の名称及び設置構想
* 附属学校園改革の詳細

（令和7年1月下旬～2月頃）

* 福島大学の研究力強化について

（令和7年3月下旬～4月頃）

* 4学部のコースやカリキュラムの詳細
* 各学部の学生定員、入試内容
* 学士課程改革後の更なる展望（大学院研究科の改革等）

国立大学法人 福島大学 Fukushima University

※文部科学省等との関係機関との調整により、公表時期や内容に変更が生じる場合があります。